

所属	人文学部 心理臨床学科	職名	教授	カタナ アムラ タツキ 氏名 有村 達之	生年月	1963年10月
最終学歴	九州大学大学院教育学研究科博士後期課程教育心理学専攻単位取得後退学		学位	医学博士 (乙 九州大学)	専門分野	臨床心理学、心身医学、慢性疼痛、認知行動療法
担当科目	臨床心理学概論、精神疾患とその治療、精神疾患とその治療Ⅱ、心理演習Ⅱ、心理実習Ⅰ、心理実習Ⅱ、心理実習Ⅲ、卒業研究、特別研究、教育相談(幼少)、認知行動療法、心理臨床学の展開、心理支援に関する理論と実践、心理実践実習Ⅱ、心理実践実習Ⅳ、多職種連携の実際、研究指導、心理実践実習A、心理実践実習B					
所属学会	日本認知療法・認知行動療法学会、日本認知・行動療法学会、日本心身医学会、日本慢性疼痛学会、日本心理学会、日本心理臨床学会、日本人間性心理学会、日本ペインクリニック学会					
I 教育活動						
	教育実践上の主な業績		年月日	概要		
2014	1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 教育相談における事例理解力向上の試み		2014年10月～2015年2月	カウンセラーとしての実践力を強化するため、架空事例を用いて見立ての実習を数回にわたって行ったのが学生からは好評であった。		
2015	教育相談における事例理解力向上の試み		2015年10月～2016年2月	カウンセラーとしての実践力を強化するため、架空事例を用いて見立ての実習を数回にわたって行ったのが学生からは好評であった。		
2016	(1)教育相談における事例理解力向上の試み		2016年10月～2017年2月	カウンセラーとしての実践力を強化するため、架空事例を用いて見立ての実習を数回にわたって行ったのが学生からは好評であった。		
	(2)認知行動療法の体験学習		2016年10月～2017年2月	心理専門職として業務を遂行する上で必要な認知行動療法の技術について、受講生自らが半年間認知行動療法を体験するという講義を行った。受講生からはストレスとのつきあい方がわかったなどの感想があり、好評であった。		
2017	(1)教育相談における事例理解力向上の試み		2016年10月～2018年2月	カウンセラーとしての実践力を強化するため、架空事例を用いて見立ての実習を数回にわたって行ったのが学生からは好評であった。		
	(2)認知行動療法の体験学		2016年10月～2018年2月	心理専門職として業務を遂行する上で必要な認知行動療法の技術について、受講生自らが半年間認知行動療法を体験するという講義を行った。受講生からはストレスとのつきあい方がわかったなどの感想があり、好評であった。		

2018	(1)教育相談における事例理解力向上の試み	2016年10月～2019年2月	<p>実際に受講前後で受講学生の平均ストレス反応得点が統計学的に有意に減少していた。</p> <p>カウンセラーとしての実践力を強化するため、架空事例を用いて見立ての実習を数回にわたって行ったのが学生からは好評であった。</p>
	(2)認知行動療法の体験学習	2016年10月～2019年2月	<p>心理専門職として業務を遂行する上で必要な認知行動療法の技術について、受講生自らが半年間認知行動療法を体験するという講義を行った。受講生からはストレスとのつきあい方がわかったなどの感想があり、好評であった。</p> <p>実際に受講前後で受講学生の平均ストレス反応得点が統計学的に有意に減少していた。</p>
2019	(1)教育相談における事例理解力向上の試み	2019年10月～2020年2月	<p>カウンセラーとしての実践力を強化するため、架空事例を用いて見立ての実習を数回にわたって行ったのが学生からは好評であった。</p>
	(2)認知行動療法の体験学習	2019年10月～2020年2月	<p>心理専門職として業務を遂行する上で必要な認知行動療法の技術について、受講生自らが半年間認知行動療法を体験するという講義を行った。受講生からはストレスとのつきあい方がわかったなどの感想があり、好評であった。</p>
2020	(1)教育相談における事例理解力向上の試み	2020年10月～2021年2月	<p>カウンセラーとしての実践力を強化するため、架空事例を用いて見立ての実習を数回にわたって行ったのが学生からは好評であった。</p>
	(2)認知行動療法の体験学習	2020年10月～2021年2月	<p>心理専門職として業務を遂行する上で必要な認知行動療法の技術について、受講生自らが半年間認知行動療法を体験するという講義を行った。受講生からはストレスとのつきあい方がわかったなどの感想があり、好評であった。</p>
2021	(1)教育相談における事例理解力向上の試み	2021年10月～2022年2月	<p>カウンセラーとしての実践力を強化するため、架空事例を用いて見立ての実習を数回にわたって行ったのが学生からは好評であった。</p>

	(2) 認知行動療法の体験学習	2021年10月～2022年2月	心理専門職として業務を遂行する上で必要な認知行動療法の技術について、受講生自らが半年間認知行動療法を体験するという講義を行った。今年度からはアサーティブなコミュニケーションについても講義を行った。受講生からはストレスとのつきあい方がわかったなどの感想があり、好評であった。
2022	(1) 教育相談における事例理解力向上の試み	2022年10月～2023年2月	カウンセラーとしての実践力を強化するため、架空事例を用いて見立ての実習を数回にわたって行ったのが学生からは好評であった。
	(2) 認知行動療法の体験学習	2022年10月～2023年2月	心理専門職として業務を遂行する上で必要な認知行動療法の技術について、受講生自らが半年間認知行動療法を体験するという講義を行った。通常、認知行動療法の講義は体験学習ではなく、理論の講義が多い。本講義のような体験学習はおそらく他大学では例を見ない試みであると思われる。
	(3) 心理演習Ⅱにおける心理面接スキルのOSCEによる客観的評価の導入。	2022年10月～2023年2月	心理専門職のスキルである心理面接スキル、多職種連携を支えるコミュニケーションスキルを客観的に評価するOSCE（客観的臨床能力試験）を導入してスキルの定量的評価を試みた。高スキル学生と低スキル学生を明確に判別できる印象であった。OSCEセッション3回の合計得点のアルファ係数は0.85と高かった。また、OSCE後に対象学生に個別フィードバックを行い、さらに「認知行動療法」で指導済みの問題解決スキルを用いて面接スキル改善を試みたが統計学的に有意な改善が見られなかった。低スキル学生のスキルを現実的に指導可能な時間の制約の中で改善させるのは困難と考えられた。今後は臨床的に意味のある合格ラインの検討を行う予定である。
2019	2 作成した教科書、教材、参考書 心理支援実践ガイダンス 2心理支援 第2章行動論・認知論に基づく心理療法	2019年6月	公認心理師大学院の「心理支援に関する理論と実践」科目の教科書。
	3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

	なし					
	4 その他教育活動上特記すべき事項					
	なし					
II 研究活動						
	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月日	発行所又は発表雑誌等の名称(巻・号数を含む)	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当ページ数
2014	1 著書 (1)認知行動療法. ペインクリニックのための新キーワード 135	共著	2014年5月1日	新興交易(株)医書出版部	有村達之、細井昌子、児玉謙次 編集小川節郎	pp. 296~297
	(2)心理的問題の評価法. 腰痛のサイエンス	共著	2014年5月18日	文光堂	有村達之 編集山本達郎	pp. 133~134
2015	慢性痛の心理療法 ABC	共著	2016年3月18日	文光堂	有村達之他 編集 山本達郎・田代雅文	pp. 22~30 pp. 61~67 pp. 111~117
2017	病気のひとのこころ	共著	2018年1月25日	誠信書房	編者; 松井三枝、井村修、著者; 有村達之、腹巻豊、井村弘子、小池真規子、佐藤聡美、橋本洋子、小森憲治郎、山口加代子	pp. 1-15
2014	2 論文 ヨガを取り入れた心理療法のエビデンス	単著	2014年3月31日	応用障害心理学研(2014)第13号		pp. 1~8
2017	慢性痛患者の心理アセスメントのキーポイント - 慢性痛と怒り -	共著	2017年5月	日本臨床麻酔学会誌 37巻3号	田代雅文、有村達之、細井昌子	pp. 388-396
2018	慢性疼痛治療におけるマインドフルネストレーニング 心理職の役割	単著	2018年4月15日	ペインクリニック第39巻第360号	有村達之	269-274
	痛みを和らげるマインドフルネス	単著	2018年9月1日	教育と医学 第66巻 9号	有村達之	66-73
2019	母親の失体感傾向と子ども虐待傾向の関連性について	共著	2020年3月31日	心理・教育・福祉研究(2020) 第19号	西村由美子・有村達之	pp. 9~17

2020	熊本地震を体験した大学生の心的外傷後成長と失感情症の関連性の検討	共著	2021年3月31日	心理・教育・福祉研究 (2021) 第20号	東明奈・有村達之	77 - 83
2020	子ども時代のネグレクト体験の報告は大学生の痛み体験と関連している	共著	2021年3月31日	心理・教育・福祉研究 (2021) 第21号	古川真由・有村達之	85 - 94
	3 その他 なし					
III 社会的活動						
	年月日	委員、講演テーマ・研究会、賞・表彰等の名称			所属、委託団体、授与機関等の名称	
2018	1 職務専念義務免除による活動 なし					
2014	2 公開講座、講演、研究会活動 2014年11月30日	認知行動療法をメンタルヘルスに生かすうつ病と慢性疼痛を例として一平成26年度第4回大分認知行動療法公開セミナー			大分認知行動療法研究会	
2015	2015年10月18日	認知行動療法の基礎平成27年度第3回大分認知行動療法公開セミナー			大分認知行動療法研究会	
	2015年11月23日	痛み医療における心理支援日本心理学会90周年記念企画事業 日本心理学会公開シンポジウム医療における心理学の広がりを考える			日本心理学会	
2016	(1)2016年11月3日	痛みへの心理支援日本心理学会90周年記念企画事業日本心理学会公開シンポジウム医療における心理学の広がりを考える			日本心理学会	
	(2)2017年2月6日	II 認知行動療法の基礎技法の活用平成28年度第4回大分認知行動療法公開セミナー			大分認知行動療法研究会	
2017	2017年11月15日	「認知行動療法による援助者のセルフケア」			済生会熊本病院	
2018	2018年11月3日	麻酔科領域講習〔8〕慢性痛の認知行動療法			日本臨床麻酔学会第38回大会	
	2018年11月19日	職員研修 認知行動療法とアンガーコントロール			福岡高等裁判所	
2019	2019年6月17日	健康管理に関する講習会「ストレスマネジメントについて～セルフケア～」			福岡高等裁判所	
	2019年7月18日	教育講演9 認知行動療法			日本ペインクリニック学会 第53回大会	

2019年11月3日	これからの心の支援のためにー国家資格「公認心理師」についてー	九州ルーテル学院大学
2019年12月4日	健康管理講習会「ストレスマネジメント～セルフケア～」	熊本地方裁判所
2020年3月28日	日本慢性疼痛学会 理事	日本慢性疼痛学会
2021年8月24日	福岡市日常生活自立支援事業研修	福岡市社会福祉協議会
2021年9月18日	心理相談員会 2021年度第1回研修会	心理相談員会
2021年10月5日	マインドフルネス研修会	熊本県児童養護施設心理部 会
3 社会的表彰 なし		